

# 曹洞宗中国管区 教化センターだより

《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター

〒683-0802 米子市東福原1-1-22

ウエストビル402号室

TEL.0859-31-5161

FAX.0859-31-5163

HP <http://kyouka-chugoku.com>

印刷/(株)メディアアーツ TEL.0848-36-5671

## 平成二十八年度 布教教化に関する告諭

曹洞宗管長 福山 諱法

私たちは、今、多くの課題を前にその生き方が問われています。

東日本大震災、大津波、東京電力福島第一原子力発電所事故から五年、依然として多くの人々が悲しみと不安の中にいます。また、地球温暖化と災害、戦争、紛争、テロ行為、貧困、格差、自死、いじめ等の深刻な問題がひろがっています。

この現実を直視し、私たちは「人権の尊重、平和の実現、環境の保全」の取り組みを柱とし、「殺すなかれ、殺させるなかれ」のみ教えのもと、互いに慈しみ合う争いのない社会、原子力に頼らない社会、そして、「いのち」を生かしあう社会の実現を願っています。

『修証義』に「海の水を辞せざるは同事なり、このゆえに、よく水あつまりて海となるなり」と説かれています。いかなる水も拒まない海の姿が「同事」です。一人ひとりの悲しみや苦しみを受け止めあい、支えあう同悲・同苦の生き方であり、すべての人や物との間に垣根を作らない和合の生き方です。

本年度は、四摂法の「同事」のおさとしに学び、「ともに願い、ともに寄り添い、ともに歩む」願楽を進めます。

無常迅速の人生にあって、「一仏両祖のみ教えを相承し(うけつぎ)、み仏とご先祖の前で姿勢を調え心を調えて静かに坐りましょう。大慈大悲の坐禅はおのずから「同事」の力とな

ります。

日々、他を思いやり共に生きる菩薩の誓願を實踐してまいりましょう。

南無釈迦牟尼仏  
南無高祖承陽大師道元禪師  
南無太祖常済大師瑩山禪師

## 平成二十八年度 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、一仏両祖のみ教えを守り、坐禅に親しみ、ともに生きることを目指してあります。それは日々社会にて起こる数多の困難に向き合い、尊いみ教えのもと「いのちの大切さ」を伝え、誰もがみなともに支え合いながら生きる、正しい信仰生活の実現を願うものです。

本年度は「同事」を柱とし、「ともに願いともに寄り添い、ともに歩む」の菩薩の誓願をさらに進めるべく、次のように布教教化方針を定めます。

- 一、一仏両祖のおとなえの普及に努めます。私たちは、日々「南無釈迦牟尼仏」「南無高祖承陽大師道元禪師」「南無太祖常済大師瑩山禪師」とおとなえし、そのみ教えを相承ぎ、心安らかに毎日の生活を送ります。
- 二、あらゆる差別的撤廃と人権啓発の活動にとりくみます。

私たちは、菩薩の誓願をもとに、さまざまにわたる問題を変えていく差別やいじめ、虐待などの問題を直視し、その未然防止と差別撤廃・人権確立のための歩みが続けます。三、ともに喜びを分かち合える平和な社会の

実現をめざします。

私たちは、過去のあやまちと戦争の惨禍を忘れず、非戦を誓います。恒久平和実現のために、国や民族の垣根を超えた相互理解と協調による道をともに歩みます。

四、地球環境がすべての生きとし生けるものを支えていることを思い、「地球環境をまもる全曹洞宗の運動」(グリーン・プラン)を継続していきます。

私たちは、自らが大自然とひとつであることを深く自覚し、未来の地球の姿を思い、自分だけでなく、周囲を大切にすることで環境に配慮した生活をいたします。

五、孤立する人びとと向き合い、支えます。

私たちは、年間自死者数が未だ三万人近い状況を重く受け止め、遺族の苦悩に向き合います。自死者や孤独死などを出さないよう地域社会のネットワークを作り、人びとと関わり見守ることに努め、支えます。また、高齢化社会を見据え、地域での声の掛け合いを進めます。

六、人びととの出会いの中で菩薩行を實踐していきます。

私たちは、継続して被災地支援を進めます。また悲しみと苦難の中にいる人びとに寄り添い、身近なところからのボランティア活動など、互いに生きる喜びが見出せるよう、心の支えとしての菩薩行につとめます。

七、寺院を地域社会の「絆を深める場」に活かします。

私たちは、積極的に地域社会へはたらきかけ、寺院を広く開放して人びととの絆をより強めてまいります。

# 統監就任挨拶

護国山国分寺 住職 長尾 武士



平成二十八年四月一日付けにて  
広島県聖光寺住職田中哲彦統監老  
師の後任として重責を拝命いたし  
ました。何卒宜しくお願い申し上  
げます。

此度、約四十年間お世話になっ  
ておりました広島県尾道市の天寧  
寺様より鳥取県米子市へ中国管区  
教化センターを移動することとな  
りました。これは中国管区内の宗  
務所長老師が検討し総意にて決定  
したと聞いております。以前より  
山陽方面から山陰方面へ教化セン  
ターの所在地移動しようとの論議  
もあつたようですが、曹洞宗宗務  
庁の意向もあり、尾道の教化セン  
ターにて布教化事業の実践をし

て頂いておりました。その間の中  
国管区センター歴代の統監・主監・  
賛事諸老師には教化事業に多大な  
ご尽瘁をなされたことに、深く敬  
意を表すものです。

さて昨年の十月二十日大本山  
總持寺様では二祖峨山韶禪師  
六百五十回大遠忌本法要が法定聚  
会による御正法要にて盛大裡に  
無事円成されましたことをまずほ  
お慶び申し上げます。また平成  
三十六年、太祖瑩山紹瑾禪師七百  
回大遠忌奉修されます。この御両  
尊大遠忌のスローガンは「相承―  
大いなる足音がきこえますか―」  
ですが、八年後の七百回大遠忌に  
向け、高祖様から太祖様へ、太祖  
様から峨山禪師へ、その弟子の  
二十五哲へ、そして我々法孫へと、  
仏さまのみ教えを師から弟子に絶  
えることなく受け継ぎ伝えていく  
相承を、これから未来の弟子のた  
めに更に伝えて行く努力をいたし

たく存じます。

總持寺の朝課では「大悲真誑」  
が誦経されます。ご承知のように  
峨山禪師様が能登羽昨の永光寺を  
兼務しているとき永光寺の朝課を  
済ませてから總持寺(現在の祖院)  
に早暁駆け足でお通いになる禪師  
様をお待ちするためなのですが、  
このお通いになった道が「峨山道」  
です。今から十五年前に大本山永  
平寺前貫首宮崎奕保不老閣下下  
お伴を南澤道人監院老師(現副貫  
首)とした折りに永光寺さまに拝  
登し、裏山の五老峯を拝した後に、  
その峨山道の入口を案内して頂き  
ました。じつと眺めておられた宮  
崎禪師様は、此処に「峨山道入口」  
の標柱を建ててほしいと南澤監  
院老師に申されたのを思い出しま  
す。宮崎禪師様も高祖様・太祖様・  
峨山禪師様の法を相承した一人の  
法孫として慈恩に酬いる為、大い  
なる峨山禪師様の足音がきこえた

為の報恩行だったことに感慨無量  
の思いがあります。

本年度の告諭・布教化方針は  
四摂法の「同事」です。釜田宗務  
総長内局のスローガン「ともに願  
い ともに寄り添い ともに歩  
む」はこの同事のみ教えを具体的  
に示したものです。これを実践す  
ることがお互いの垣根を作らない  
世界を構築し、より平和な社会生  
活を送れることと信じるもので  
す。尚一層の教化を勧めたいと考  
えています。

この度の教化センター役員は  
浅学菲才のうえ経験も乏しき身に  
て微力ではございますが、教化宣  
揚に精一杯精進致す所存でござい  
ます。皆様方のお力添えご指導ご  
鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げ  
ます。

末尾乍ら、皆様のご多幸をお祈  
り申し上げ、就任のご挨拶にさせ  
て頂きます。

# 統監退任挨拶



平成二十三年六月一日より、岡  
山県洞松寺専門僧堂堂長・鈴木聖  
道老師の後任として、第七代統監  
を拝命し、センター業務に従事し  
て参りました。

振り返ると、いろいろな情景が思  
い出されます。  
在任中、平成二十五年秋、セン  
ター開設四十周年を迎え、盛大に  
記念祝典を挙行し、記念事業とし  
て、管内諸老師による「法話集」  
を発刊致しました。

センター主催行事である「ラジ  
オ法話」、「青少年教化指導者研修  
会」、「子ども禅イン・サマーセミ  
ナー」、「禅をきく会」、「布教協議  
会・講習会」等、管内諸老師のご

指導、ご支援のもと、年々充実し  
た内容となり、多くの方々と「一  
期一会」の縁を結ばせていただき  
ました。管内宗務所所長老師、宗  
務所役員の方々、各御寺院諸老  
師の方々の御法愛と御荷担に感謝  
申し上げます。

就任以来、宗務所、教区、各寺  
院では対応できない教化活動を模  
索し、都市型布教として檀信徒以  
外の方をも対象とした「文化教室」  
や「禅フォーラム」などを開催致  
しました。すぐに結果が表れる事  
は期待できませんが、教化の在り  
方に一石投じたのではないかと感  
じます。

しかしながら、今後のセンター  
事業の在り方について多くの課題  
を感じます。

新たな教化方法として、イン  
ターネット社会における電話によ  
るテレフォン法話は有効なのか？  
スマートフォンなどの活用方法は

無いのか？時代の変化に応じた教  
化方法は？

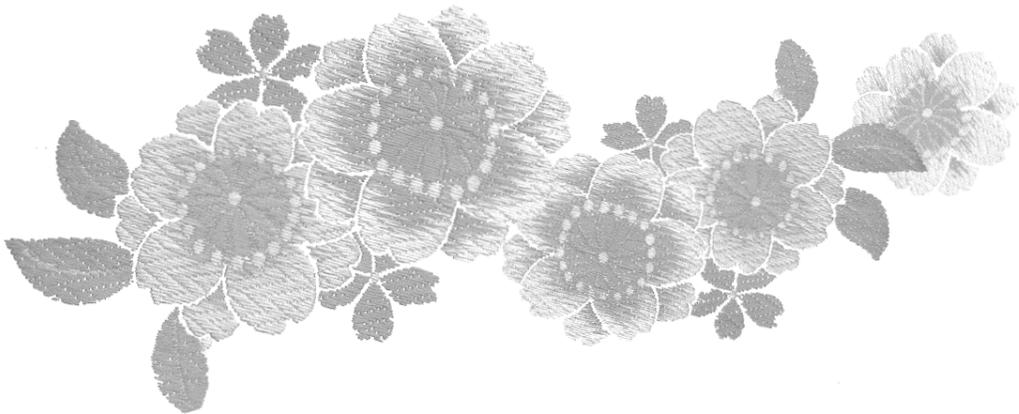
本来、法は人により伝わってい  
くべきものですが、それ以前に、  
そのきっかけとなる場面が提供で  
きないものか？

センター役員の方方も一考  
を要します。平日常動体勢では、  
なかなか対応できる宗侶が居られ  
ないのが現実です。

この度、来春四月一日より、中  
国管区教化センター(禅センター)  
事務所は、広島県尾道市・天寧寺  
御山内より、鳥取県米子市に移  
転することになりました。昭和  
五十三年四月より三十八年間に亘  
り、境内建物の一部をセンター事  
務所に提供下さった天寧寺さまに  
衷心より御礼申し上げます。

移転に伴い、センター役員で  
ある主監、賛事も交代致しますが、  
従来倍増のご支援、ご指導の程お  
願い申し上げます。

広島 聖光寺住職 統監 田中 哲彦



## 岡山県宗務所だより

### 平成二十七年三大事業報告

教化主事 山本 道雄

昨年度、当宗務所では、總持寺二祖峨山韶碩禪師六五〇回大遠忌年にあたり、三つの事業を行ってまいります。

まず、昨年九月十八日、總和会嶽山会岡山県支部主催、宗務所並びに岡山県祖門会共催のもと、矢掛町洞松寺において大恩忌法要を奉修しました。

県内寺院、洞松寺専門僧堂雲水、寺族、檀信徒が参列しての法要では、導師に岡山県嶽山会会長早川石峯老師が勤め、報恩の祈りを捧げました。

法要後は、大本山總持寺副監院山口正章老師による「峨山韶碩禪師のご生涯」と題しての記念講演が行なわれました。

二つ目は、平成十年高祖様七百五十回大遠忌記念に発刊した「曹洞宗岡山県寺院歴住世代名鑑」を再刊しました。

発刊から十数年が経ち各寺院の境内の装いも随分と変わったことから、二祖様の遠忌を勝縁にしての事業に位置づけ、約一年をかけて再刊しました。

三つ目は、昨秋、県内寺院有志で作る「閑古錐」の会により、峨山道を参拝しました。永光寺では、屋敷智乘老師から、峨山禪師について、また、本山の禪師様に就任されると、傳燈院に拝登される秘話などを教えていただきました。

## 広島県宗務所だより

### 平成二十七年行事活動報告

教化主事 稲角 道雄

#### 《檀信徒地方研修会》

十月十四日～十五日にかけて、三原市「宗光寺」様・庄原市「浄久寺」様を会場として峯岸正典老師、「菩提寺が紡ぐ縁々子孫々の繁栄を願って」と題し、また人権学習としては、野田大燈老師「寄り添う人間の尊厳を守る」と題し各々法話をいただきました。両会場で約三百五十名の参加でした。

二十八年度は、教化センター主催の「禅をきく会」が、十月に広島市で開催予定。

#### 《檀信徒本山研修会》

十一月十八日～二十日にかけて、約七十名の檀信徒共に大本山總持寺様に大遠忌法要として参籠し、下山後は、最乗寺様に参拝研修。

二十八年度は、十一月九日～十一日にて、大本山永平寺にて研修予定。

#### 《宗務所人権学習・現職研修会》

十一月十日～十一日にかけて、人権学習会は、小森龍邦氏(解放同盟広島県連顧問)をお招きし「宿業を生きる」と題して講演をいただきました。宗務庁統一テーマとして、関水博道師より「ともに願う」関係づくりを目指して、講義をいただき、現職研修会には総合研究センター所長、大谷哲夫老師をお招きし「明全和尚と道元禪師師弟関係をたどる」と題して講義を拝聴致しました。

二十八年度は、十一月二十一日～二十二日に開催予定。

#### 《梅花》

パシフィコ横浜での全国奉詠大会には、約五十五名の議員等参加。県大会は、七月五日、尾道市公会堂にて開催。議員等約五百名参加。清興としては、フォークシンガー長野たかし・あやこ様でした。

#### 《寺族会》

六月二十五日総会。秋季研修会は、十月七日庄原市にて開催。

## 山口県宗務所だより

### 平成二十七年年度の主な報告と

#### 本年度の事業について

梅花主事 末益 泰輝

各位におかれましては、益々の清祥のことと拝し、お慶び申し上げます。

山口県宗務所として、平成二十七年年度も教化関係、人権関係、梅花関係等、行持、研修を行ってまいりました。尚、今年の特別な行持としては、十月一日に「山口県宗務所・檀信徒大会」を勤めさせていただいた事です。午前中は、總持寺二祖峨山韶碩禪師六五〇回大遠忌法要を「檀信徒大会」として位置づけ、午後からは教化センター主催の「禅をきく会」は、北信越教化センター統監の増田友厚老師の講演や、KRYラジオ「今日のこころ・私のこころ」の原稿をもとにしたトークコンサートという形式で行いました。

当日、雨の強い一日でしたが、総参加者数六五〇名を賜り盛会に勤めさせていただきました次第です。

次年度につきましては、通常の行政に加え、宗務庁伝導部の認可を頂き、山口県師範、詠範の会を中心に、山口県オリジナルの「梅花流詠歌CD」を作成する運びとなっております。

「親しみやすい梅花流CD」の作成を目指し、県内師範、詠範のみならず、子どもたちによる詠歌を取り入れる予定です。県内寺院全てに配布し、梅花講のあるお寺はもとより、ないお寺においても、本堂・位牌堂などでかけることが出来る、参詣の方が心安らいで頂けるようなCDが出来上がる予定です。これが、更なる梅花流の発展や推進、議員の新規開拓、檀信徒への布教化に繋がっていくと関係者一同期待しております。

皆様に本年度も変わらぬご指導の程をお願い申し上げます。山口県のご報告とさせていただきます。

## 鳥取県宗務所だより

### 平成二十七年宗務所行事報告

人権擁護推進主事 山脇 俊英

平成二十七年年度は各所員初めて対応する諸行事も多く、それぞれが右往左往、紆余曲折を繰り返してきた一年でありました。

宗務所行事の教化関連では六月二日～十日に岐阜県より各務素弘老師にお越し戴き各教区会場に於いて特派布教を行いました。

また、六月二十五日の宗務所婦人会・総会では愛媛県の高岡潔宗老師の講演を賜りました。七月二十七日～二十九日に第一班百十一名、二十八日～三十日に第二班百一名参加で檀信徒本山研修会を大本山總持寺にて行いました。また、現職研修会を九月一日～二日にかけて行い、新潟県の檀信徒老師による声明研修、倉吉市人権局の下吉真二氏によるインターネットによる人権侵害について学習しました。

十月十四日に愛知県より青山俊董老師をお招きし、檀信徒地方研修会を行い、体験談を通し、法に沿った指針を御教示戴きました。

梅花関連では五月二十七日～二十九日に、梅花流全国奉詠大会が横浜市パシフィコ横浜に於いて行われ、参加者六十三名でした。十一月十一日～十四日に静岡県の太田哲山師範、大阪府の福原利行師範による丁寧なるご指導のもと、梅花流特派講習会を行いました。また、二十八年二月一日～四日まで梅花流宗務所検定会、同月十四日には第四十八回県奉詠大会と立て続けに行事が重なりました。

人権関連では七月三日に池谷由美氏によるプロトボルフリン症に関する人権学習会を行いました。以上の行事内容でしたが、この度の反省を踏まえつつ、二十八年度に向け邁進して行く所存でございます。

## 島根県第一宗務所だより

### 小規模宗務所にできる事

所長 小松 壽典

当宗務所は、島根県西部の五教区により構成され、職員は八名の小規模な宗務所です。平成二十七年七月より新しい職員を迎えて活動しております。

予算、人員等限られた条件の中で、教化・人権・梅花等様々な活動を行います。小規模宗務所だからこそできる事を念頭に置いて事業計画を作成しています。

寺院はお檀家があつてこそ成り立つものです。宗侶、寺族、檀信徒の距離感を大切に、より近く親密な関係を構築したいと考えます。

宗教は人間の疑問や不安、問題に答えてきました。医療、科学の発達と共に宗教の領域が狭まってきている感があります。経済的な考えが重きを置かれている時勢の中で、寺院及び宗侶として何が出来るかを考える必要があります。先に述べた距離感が近い事は、檀信徒の心に直接触れる機会が多い事につながります。

平成二十八年三月に開催した、宗務所主催「梅花流奉詠大会」にて、最後に参加者と一緒に「まごころに生きる」を合唱し、「ともに願い、ともに寄り添い、ともに歩む」事を参加者一同で誓い合いました。

平成二十八年度もこれまでの事業を引き継ぎながら、宗侶、寺族、檀信徒と共に歩んでまいります。今後共にご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 島根県第二宗務所だより

### 宗務所行事の概要

教化主事 板倉 省吾

当宗務所では、昨年度初頭に「宗務所施策の重点」として、以下の三点を挙げました。

- ①宗門教学の参究と布教化活動の充実
- ②宗侶・寺族・檀信徒、関係団体との連携の密接化
- ③人材の計画的育成と後継者問題への対応

これらを目標達成の大綱として、その具体的な成果として結実させることを目指して、各種の事業の計画と実施をして参りました。

五月には宗務所Webbook、八月には公式ホームページを開設し、宗務所情報発信促進を図りました。

五月二十六日、宗務所寺族会総会の分散会では、寺院の日常生活に関する意見交換が行われました。

六月五日、宗務所婦人会総会では雲南市三刀屋の峯寺(真言宗御室派)名譽住職・松浦快芳師より「山に祈る」と題した講話を賜りました。六月には「人権啓発標語ポスター」を発行し、多数の応募の中から「わたしから 笑顔で言おう ありがとう」の標語が選ばれました。

同じく六月中に大本山總持寺二祖峨山韶碩大遠忌報恩参拝と兼修した檀信徒本山研修会を二班計二百二名で実施しました。

七月二十四日の宗務所護持会研修会では、出雲文化伝承館博物館の藤原隆氏より「出雲の風外さん」画禅一如・出雲での足跡」と題した、風外本高師についての講演を頂きました。

九月五・六日には現職研修会を開催。主任講師に薄井秀夫氏(株式会社寺院デザイン代表)をお招きし、「少子高齢化と過疎化の中で、お寺にできること」とコミュニティからコミュニケーションへ」と題した研修を実施しました。十二月四日には布教委員会・人権委員会講習会が開催され、講師に特定失踪者問題解決などに取り組む「東アジアネットワーク」の代表幹事・石原倫理氏をお招きしました。

4	2～3	教化センター前期連絡協議会	宗務庁
4	13	教化活動推進委員会	広島市ヒロデン 26年度事業報告 27年度事業計画
4	17	センター布教師協議会	平成27年布教教化方針・教化資料について
4	下旬	センター報第31号発刊	中国管区内ご寺院(約1,100ヶ寺)に郵送(兼務地で不在の場合は未発送)
5	12～13	人権三者協議会	山口市「山口グランドホテル」講師◎石原倫理氏
5	21	教化活動企画委員会	広島市ヒロデン教化資料、ラジオ放送の在り方
5	22	教化資料等企画制作委員会	広島市ヒロデン ラジオ原稿の点検、校正
6	3	曹洞宗婦人会中国管区役員会	広島市ヒロデン 各宗務所婦人会代表(各会長など) 10月の研修会(於:岡山県鷺羽山ハイランドホテル)での配役分担について
6	18～19	青少年教化指導者研修会	山口市 梅乃屋 講師◎山口正章老師 講義Ⅰ『峨山禪師のご生涯と五院制にみる總持寺教団の発展』 講義Ⅱ『布教の心得』 人権学習 講師◎山縣洋典老師『現代の僧侶が具備すべき人権意識』 ◎鈴木隆泰氏 講義Ⅲ『お釈迦様の無記について』 受講者39名
7	6～7	管区役職員人権啓発研修会	山口市「山口グランドホテル」講師◎小畑太作氏・蓮池薫氏・角直彦師
7	28～30	第31回子ども禅インサマーセミナー	鳥取県三朝町「プランナールみささ」 講師◎上方落語家・天台宗僧侶 露の団姫師〔仏教落語〕 ◎太神楽曲芸師 豊来家大治朗氏〔実演講師〕 内容:坐禅・読経・現地学習・陶芸教室・統監・講師による法話・指導員による五観の偈の説明、等々 ◎参加者:子ども51名(小二14・小三7・小四11・小五9・小六6、中一2、男子28名・女子23名)、大人4名(男性3名・女性1名)、指導員10名(男性6名・女性4名)、講師2名・来賓1名、本部4名 総数68名 ◎参加費:子供1万円・大人1万8千円
9	8～9	センター布教協議会・講習会	岡山市 アークホテル岡山 講師◎福島県長秀院住職 渡邊祥文老師 講義Ⅰ『何をどのように説くのか—仏法を説く』 講義Ⅱ『現代社会と切り結ぶ—現代苦に向き合う』 ◎人権擁護推進主事 小形宏昭老師 人権学習『過去の差別から学び今を観る』 受講者83名
10	1	禅をきく会〔センター主催・山口〕	山口県総合保険会館 講師◎北信越管区教化センター統監 増田友厚老師 『今、ここで、慈念に生きる』～つながらる“いのち”を耕しあって～ ◎中司弘子氏・広原かおり氏『トークコンサート』 参加者約700名
10	22～23	教化センター後期連絡協議会	福島市 全国教化センター主監会議
10	26～27	曹洞宗婦人会中国管区研修会	岡山県 鷺羽山ハイランドホテル 講師◎埼玉県吉祥院住職 丸山劫外老師 演題『道元禪師の和歌から学ぶ』 ◎朱鷺たたら氏『中空の竹～笛は歌う』 人権学習 ◎立石憲利氏『民話は人をつなぐ』 ◎参加者総数約220名
10	30	教化活動推進委員会	広島市ヒロデン 平成27年度報告 平成28年度計画 その他
11	17	禅をきく会〔本庁主催・島根2〕	雲南市加茂文化ホール ラメール 講師◎作家 大正大学客員教授 井沢元彦氏『仏教と神道』 ◎中司弘子氏・広原かおり氏『トークコンサート』(参加者約600名)
2	4～5	布教委員長会議	山口県宗務所管内

◎毎月第三水曜日〔山陰中央新報文化講座「禅のこころ」:於 松江市〕講師:森下慈孝老師・森田裕光老師(4月～3月)

毎週のラジオ放送〔広島市 RCCラジオ中国放送制作〕

毎週土曜・日曜日、朝5時台～6時台のAMラジオ放送『今日のこころ 私のこころ』→5分間枠

RCC中国放送(広島県・土・6時25分～)をキー局に、KRY山口放送(山口県・日・6時15分～)、RSK山陽放送(岡山県・日・6時10分～)、BSS山陰放送(山陰・日・6時45分～)の計4局で放送中。

※放送に際し、企画制作委員会を年3回、ラジオ収録を毎月1回実施

# 紙上法話

## 自らの行いは止まらせず

センター布教師 長徳寺住職 河谷正也



私が住職をさせていただいている長徳寺は、平成十八年の暮れに檀家の方々が利用される会館と住職が居住する庫裡が完成しました。前の住職が計画を発案してから二十数年が経つてのことでした。今思えば年号が平成になってから台風や豪雨などの災害で、本堂屋根の総吹き替えなどの復旧工事が続き、会館の建築どころではありませんでした。そのような状況の中でもこのことは総代会の度に懸案事項として確認をして頂いておりました。そしてついに二十一人からなる建設委員会が立ち上がり具体的にことが動き始めました。委員会解散までの六年間、実に七十八回の集まりがありました。恐らくこの回数は他のお寺様の場合と比べると多い方だと思えます。たくさん難題を抱えながらも一つずつ協議を重ねていき、無事にこの事業を成し遂げることができました。

「箸よく盤水を回す」という言葉があります。たらいの中に水を張り、その真ん中を箸で回し続けると、周りの水が少しづつ動き出し、そして大きな渦になるという訓えです。私はこの言葉を、国際ボランティアを熱心にされていたある老師から二十数年前に教えて頂きました。初めは理解者が少なくとも断念せずに活動を続けていけば協力者も徐々に増え、そのうち大きな動きになっていくということでした。

会館の建築についても、私自身、会議の多さに計画が頓挫する

のではないかと思うこともありませんでしたが、とにかく微力ながら箸は回し続けることに決めていました。そのような中で、建物のことについて聞きたいことがあるとき、たまたまその分野の方がお参りに来られたりとか、計画が前に進むためにかような不思議な出来事がたくさんありました。前の住職の思いから始まり、様々な人々の輪が少しずつ広がっていき、時間は掛りましたが建物の完成をみることもできました。正直なところ竣工したことは嬉しいことには違いありませんが、そのことよりも、この事業に拘わられた方々とのご縁に大いなる喜びを感じました。現在出来上がった建物は既に風化が始まっています。できるだけ多くの人々に活用して頂きたいと思っています。

日々の生活の中で、記憶だけを頼りにしたり、または先のことばかりを気にしすぎたりすることもあります。しかし、言うまでもなく昨日までは過ぎ明日は来るかどうかも分からないという、今しかないというのが現実です。ですから、今の行いを修めることに重きがあります。また、楽なことも辛いこともありすが、本日只今の行いができていることに感謝できていれば、気が付かなくても心は自然と安らかなものになっているものだと思います。人はそれぞれいろんな事情を抱えています、今この瞬間、その人なりの箸を回すことが貴いことです。



# 第31回 子ども禅インサマーセミナー

## in 鳥取・ブランナルみささ

平成二十七年七月二十八日(火)〜三十日(木)

【講師】

太神楽曲芸師

豊来家 大治朗 先生

天台宗僧侶 上方落語家

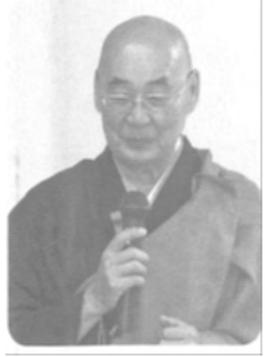
露の団姫 先生

### 子ども禅インサマー セミナーに参加して

指導員 生田 泰孝

私は、今年でこの「禅インサマーセミナー」に参加させて頂いて、二回目になります。今年も、四班の指導員を担当させて頂きました。初めての班担当で少し緊張と大丈夫かという不安もありましたが、四班の元気いっぱいの子ども達(少しヤンチャ過ぎる所もありました)が…笑)と一緒に楽しく三日間過ごす事が出来ました。昨年参加していた子ども達とも再会する事が出来て、当たり前の事ながら、昨年一年が経ち、昨年一年生だった子ども達も二年生になっていて、少し成長していて、親ではないのに、勝手に少し嬉しくなりました。今年も、鳥取県三朝温泉で行われました。テレビ朝日の人気番組「ぶっちゃけ寺」でも「活躍の露の団姫先生、露の先生の夫の豊来

家大治朗先生を御講師にお招きし、言葉遊びに落語、太神楽曲芸のご披露、そして今回は、同三朝町にある三徳山三仏寺の奥院、投入堂への登山。今回残念ながら、登山の為、小さい子どもさん(一年生)の参加が出来ませんでした。登った人が全員ケガ無く登山出来た事は、やはり御仏様の御加護があったのかなと思います。子ども達も大変良い経験が出来たのではないのでしょうか。私も同じように大変良い経験をさせて頂きました。子ども達にとっても、こうして実際に山に登ってみて途中、無理だとか、しんどい、辛い思いもしたと思いますが、これから大人になっていく時に、たくさん壁や困難が訪れた時、この登山の経験を生かして、幾多の困難にも立ち向かい、乗り越えられる、そんな大人になってくれる事を祈っています。



田中哲彦老師



金田鳥取県青年会長

加した子ども達も大人になった時、この事を思い出してくれたらいいなあと思います。そして、こうして仏教に親しむ事で、自分の事より他人の事を思い、周りの人に思い遣りを持てる。仏教では「慈悲の心」とも言いますが、そんな「こころ」を持つている人に成長してくれると信じています。

「子ども禅インサマーセミナー」を通して、子ども達へ伝えていきたいら良いと思います。今回この「子ども禅インサマーセミナー」も第三十一回を迎えています。これから先、四十回、五十回と続く事を願っています。また来年も参加したいと思っています。この度も参加させて頂いて本当に良かったです。



### サマーセミナーの 思い出

中三 坂井 裕哉

僕が今回のサマーセミナーに行って楽しかった思い出は五つあります。

一つ目は、露の団姫先生の落語披露です。僕は落語をその時まであまり知らなかったです。でも先生の落語を聞いてやっと意味がわかりました。あとの子ども達の「もたろう」っぽい話もおもしろかったです。

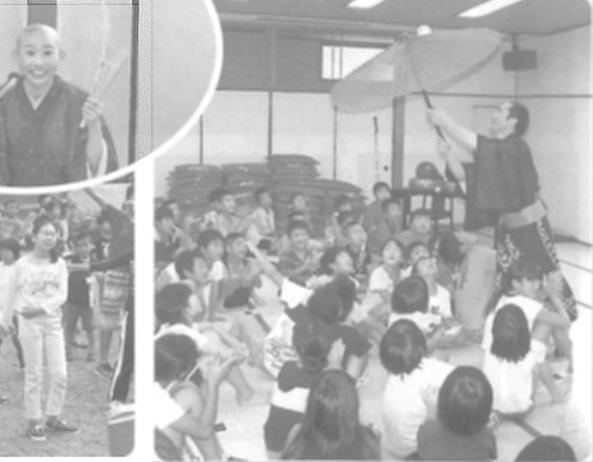
二つ目は、三徳山への登山です。最初はどんな感じなのかまだわかってなかったけど、登ってみるとけっこうしんどくて岩がたくさんあって、けっこうすべりやすく「しんどい」などと言いつつながらも投入堂まで一人もかけることなく登りました。その帰りも登った時とは、ぜんぜんちがっていて、みんなすべっていたけれど、だれも怪我せずに下ることができました。帰ったあと、いそいで昼食を食べ龍鳳閣の温水プールに行き、短時間だったけどとても楽しかったです。

帰って夕食を食べたあと、みんなでキャンドルサービスをして班

ごとにスタンツをしました。今回は、組体そうをする班がたくさんいてけっこうびっくりしました。でも色々なことが出来てよかったです。

でも、最後に一番、思い出に残ったのは、豊来家大治朗先生の太神楽曲芸披露です。かさで色々なものを回すのはとてもすごかったです。他の芸もはらはらどきどきしておもしろかったです。最後の剣のリングの内側を通りぬける芸はすごかったです。

今回もたくさんさんの思い出が出来ました。



平成二十七年十一月十七日  
於：島根県雲南市  
「加茂文化ホールラメール」



講師

井沢 元彦氏

●島根県第一宗務所  
第九教区善福寺檀徒

芝原恭一

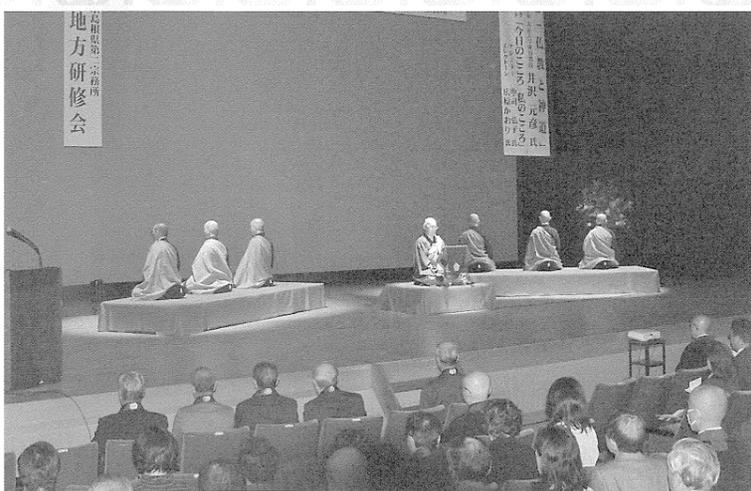
菩提寺であるお寺と氏神さまである神社の二つの責任役員を務める私にとって、講師 井沢元彦先生の「仏教と神道」という演題は非常に興味深く拝聴させていただきました。

はじめに、今世界を震撼とさせているIS(イスラム国)に関連し、世界の総人口の半分以上を占めるキリスト教とイスラム教が、お互いに教祖イエス・キリスト、教祖アラーの神を否定し続けている争いの歴史を知り比較することで仏教と神道の特徴を考えようとの始まりでした。

「豚肉は穢れている」というイスラムの教えにふれ、天皇を偉大な神とする日本の神道でも、古来から死人とか葬儀とかを最も忌み嫌っていた「穢れ」への解決策として、持統天皇は外国(中国)から入って来た医者や僧侶にその扱いをさせることで神道の欠点を補ったとのこととお話にお寺と神社の関係を知ることができた思いでした。当地方で

も死人が出た家では一番はじめに神棚に中折れ紙を貼り神さまに目をつむっていただく習慣が残っているのもなるほどというなづけました。

次に、奴隷制度が存在していたギリシャの不自然な民主主義に対して、雑巾がけでもトイレ掃除でも修業のひとつと考える道元禅師さまの曹洞宗が日本の民主主義に与えた役割は大きかったとお話に、「其形陋し」というとも此心を發せば：男女



地方研修会

論ずることなかれ」と続く修證義第四章の一節からも道元禅師さまの「人は皆平等である」という教えを、講演を通して実感することができた大変有意義な研修会となりました。

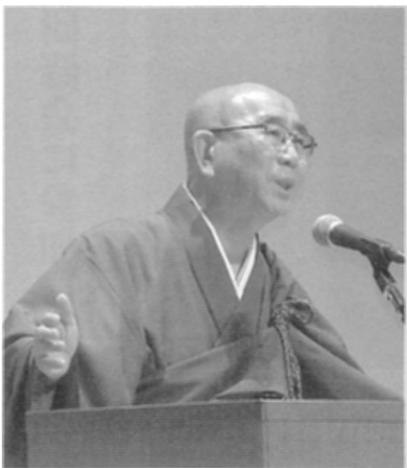
今回の研修会にご尽力いただいた管区教化センターさま、宗務所事務局のみなさまに感謝すると共に、今回参加できなかった檀信徒の方々にも少しでも研修内容をお伝えしたいと考えております。



# 会をきく 禅

講師

増田 友厚 老師



センター主催

平成二十七年十月一日  
於：山口県山口市  
「山口県総合保健会館」

●山口県護持会  
会長 山見清雪

去る十月一日、山口市の山口県総合保健会館に於いて中国管区教化センター主催による「禅をきく会」が開催されました。県内各地より六〇〇名に及ぶ方々のご参集を戴き、盛大な催しとなりました。

午前中は、山口県宗務所主催による檀信徒大会が行われ、本尊上供に続き、「終戦七〇年慰霊法要」と「峨山韶碩禅師六五〇回大遠忌法要」が営まれました。午後から「禅をきく会」はじめに統監田中哲彦老師のご指導による椅子坐禅にて心を落ち着かせ、その後、北信越管区教化センター統監増田友厚老師によるご法話。そして中司弘子(ナレーター)・広原かおり(エレクトーン)両氏によるトークコンサートを拝聴させて頂きました。

トークコンサートは、中国管区教化センターの活動の一つであるラジオ法話の原稿に映像と音楽を交えての朗読で、県内の方々様方の体験や感じておられる思いが視覚・聴覚を通して心

が安らかになる素敵なコンサートでございました。そして何より感動致しましたのは、増田友厚老師のご法話でした。

最初に老師は「坐禅」と「相承」についてお話をされ、続いて「いのち」とは何ですかと問いかけられました。一生懸命に生きている姿、これを「いのち」と言うのですと語られた。人生は悩み苦しみ、時には辛いこともある。でも「いのち」は両親をはじめ多くの人の願いや苦勞を支えられた「いのち」である

と話されました。ご法話の終盤に「相田みつを」さんの「ただいるだけで」という詩を紹介されました。

私は禅の教えは厳しいものと思っておりましたが、自分に厳しいが故に人にやさしくなれる。今日一日の研修で人の生き方を学ばせて戴き、大変有意義な日となりました。これからの人生、人の思いに向きあいながら、「利他行」を胸に暮らしてみたいと思います。



# 青少年教化指導者研修会



平成二十七年六月十八日～十九日  
於 山口市・梅乃屋  
メイン講師 大本山總持寺副監院心得 山口 正章 老師  
山口県宗務所 海印寺 角 光全

## 研修会に参加して



山口正章 老師

かくという三つの講義であった。どれも私たち僧侶にとって重要なことであり、大変有り難く心に留めさせて頂いた。

山口老師のお話の中で、宗教とは人間としての根本の教えであり、その教えとしての仏法とは何かを考え、それを「正しく」人々にお伝えするのが布教である。しかし自分の考えを説くことではない。「釈尊の教えをお取次ぎする」のである。というお言葉があった。ここで意味な自分の思うことは、「釈尊の教えをお取次ぎすること」とは、「知識としての正しい教えを、言葉でいかに多くの人々に伝えるか」だけではなく、「正しい教えにつながる行いをいかに自身が実践し続けていくか」とも言えるのではないかと感じた。

山縣老師の講義で、マスメディアの高速化と広汎化という話があった。インターネットが当たり前の現代社会では、膨大な量の情報が苦も無く簡単に、ひいては望

まない情報までも手に入る。ただでさえ難しい「正しい判断」だが、情報の氾濫によってさらに目が行き届いていく。そんな中、仏法の正しい教えをもって生きることが大きな意味があると思う。



山縣洋典 老師



鈴木隆泰 先生



# センター布教協議会・講習会

## 布教協議会・講習会に参加して

九月八日・九日、二日間の日程で「平成二十七年年度布教協議会・講習会」が岡山アークホテルにて開催されました。

初日は講師に特派布教師、福島県長秀院住職、渡辺祥文老師を迎えて、「何をどのように説くのか」「仏法を説く」「現代社会と切り結ぶ」「現代苦に向き合う」というテーマでお話を聞かせていただきました。その中で、特に印象的だったのが、布教をする上で常に心がける



渡辺祥文 老師

べきこととして、法話とは身口意の「三業説法」であるということ。話すということは口業説法(丁寧かつ正確に言葉で伝える)であるが、それだけではなく、身業(日常の修行と生活ぶり)が大切である(われる)、意業(人柄や気持ちが見える)が伴っていないと見えないということ。

坐禅をやったことがない人が坐禅について語っても説得力がないのと同じで、自分の日々の生活、日常の送り方が法話にあらわれるのだということ。何をどのように説くのか「仏法を説く」この「仏法」とは「仏様の教え」です。

しかし、「教え」をそのまま話したところで、それは単なる説明になっただけです。「教え」を自ら実践し、自分のものとして話すということ。それが「仏法を説く」ということだと思いました。そして、そうすることで話に、より説得力、内容にも重みが増し、問法者にも



小形宏昭 老師

伝わるのではないのでしょうか。二日目は、岡山県宗務所人権擁護推進主事の小形宏昭老師に「過去の差別から学び、今を観る」というテーマで人権学習の講義をしていただきました。

内容は、明治六年に起きた「美作騒擾」についてでしたが、参考資料の地図を見ますと、この騒擾の中心地は私の住んでいる津山市でした。明治六年は私が生まれる百六年前です。政治も旧幕府から新政府に変わり、様々な面で制度に大きな変化があり、民衆の不満がいっきに爆発して起きた騒擾だったそうです。大きな制度の変化があった時、今まで当たり前だった



平成二十七年九月八日～九日  
於 岡山市・岡山アークホテル  
メイン講師 曹洞宗特派布教師 渡辺祥文 老師  
福島県長秀院住職 久保 康道  
岡山県長安寺副住職

たことが、当たり前でなくなった時に、新たな「人権問題」が生まれないよう、よくよく日頃から、人権意識をもって生活しなければならぬと思えました。

最後に岡山、広島、山口の各代表者とセンター布教師の翁泰仙老師が布教実演をされました。皆さんの話を聞いて、自分が話すことも重要だが、「人の話を聴く」ことで、より自分の法話、話術が磨かれる。「人の話を聴く」ことの重要性を勉強させていただきました。

# お知らせ

## センター布教協議会・講習会・検定会

- 日時 平成28年9月6日(火)正午受付  
13時開講～7日(水)正午まで  
7日 午後13:00～検定会
- 会場 鳥取県米子市 米子全日空ホテル
- 講師 曹洞宗特派布教師 長野県伊那市  
常輪寺住職 中野 天心 老師
- 参加費 13,000円
- 対象 布教師・宗門僧侶
- 申込先 各宗務所
- お問い合わせ先 教化センター

## 青少年教化指導者研修会

- 日時 平成28年6月7日(火)正午受付  
13時開講～8日(水)正午まで
- 会場 鳥取県米子市 米子ワシントンホテルプラザ
- 講師 広島FMパーソナリティー  
益村 千代 氏
- 参加費 13,000円
- 対象 青少年教化委員
- 申込先 教化センター
- お問い合わせ先 教化センター



鳥取県 第八十八番 正明寺  
住職 白澤 和敬 老師  
倉吉市福富312  
電話 0858-28-3260



広島県 第八十八番 運西寺  
住職 坂上 興道 老師  
尾道市原田町梶山田770  
電話 0848-38-0203



岡山県 第十八番 中興寺  
住職 野口 祥善 老師  
井原市美星町星田7171  
電話 0866-87-3054

### 新センター布教師紹介

## 曹洞宗ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」

### ラジオ法話集 2015年版

《1月～16年3月放送分》 65話収録



この度、1冊実費1,000円(送料込)で頒布いたします。  
曹洞宗中国管区教化センター  
までお申し込みください。

ラジオ局	地域	周波数	曜日	放送時間
RCC(広島)	広島市	1350kHz	土曜日	6:25～6:30
	福山市・三原市・府中市	1530kHz		
	三次市・庄原市	1458kHz		
KRY(山口)	山口市	1458kHz	土曜日	5:10～5:15
	萩市	1485kHz		
	下関市・岩国市	918kHz		
	周南市・須佐町	765kHz		
RSK(岡山)	岡山県	1494kHz	日曜日	6:10～6:15
BSS(山陰)	鳥取市・出雲市・益田市	1431kHz	日曜日	6:45～6:50
	倉吉市・江津市・浜田市	1557kHz		
	米子市・松江市・境港市	900kHz		
	大田市	1485kHz		

曹洞宗ラジオ法話放送  
「今日のこころ 私のこころ」  
放送日のご案内



篠笛コンサート

今年、四十周年記念大会と言  
う節目で、十月二十六日、二十七  
日に晴れの国岡山県の「鷺羽ハイ  
ランドホテル」に於いて開催され  
ました。開催県という緊張と身が  
ひきしまる思いの中、開会式が行  
われました。つづいて朱鷺たたら  
氏の篠笛コンサート「中空の竹」  
笛は歌う」で曲にあわせて手拍子  
でなごやかに、また竹久夢二の「宵



丸山却外 老師

待草」には、しんみりと聞き入り、  
篠笛の世界にひき込まれていきま  
した。  
薬石の席では、会員皆様による  
手作り経典に、三ブロックに分か  
れておもてなしのアトラクシオン  
を「にわか素人劇団参上」で笑い  
がたえないなごやかな雰囲気の中  
一日目が終わりました。  
二日目は、田中哲彦統監老師の  
坐禅指導。背すじをピンとして早  
朝からキリッとしんみりとして一  
日の始まりです。その後、丸山却  
外老師の「道元禪師の和歌から学  
ぶ」と題しての講演があり、私は  
御詠歌を習って、まだ奥深く  
勉強はしていませんが、お唱えを



立石憲利 氏

したことのある御詠歌の説明を聞  
いて、頭に思い浮かべてみました。  
小柄な体格から熱く講話をしてい  
ただきました。その後、人権学習  
で、立石憲利氏の「民話人は人をつ  
なぐ」と題して地方、地方の民話  
が沢山あると言われ、なんとなく  
ホッコリした時を過ごしました。  
先日も新聞に二百三話目が掲載さ  
れていました。  
今年初めて薬石の進行役をつと  
め、ドキドキハラハラ、役員様や  
会員様の協力や、アドバイス、フォ  
ローをしていただいていたなんとか無  
事出来ましたことを心より感謝い  
たします。



# 曹洞宗婦人会中国管区研修会

岡山宗務所第四教区 高梁市万福寺 三宅 千恵子

平成二十七年十月二十六日～二十七日  
於 岡山県・鷺羽ハイランドホテル  
メイン講師

# 平成28年度事業計画

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

月	日	行 事	主 催	備 考
4	4(月)～5(火) 13(水)	全国教化センター前期連絡協議会 教化活動推進委員会	宗 務 庁 センター	広島市 ホテルニューヒロデン
5	12(木) 13(金) 13(金) ( )	教化資料等企画政策委員会 センター布教師協議会 教化活動企画委員会 中国管区教化センター報第32号発刊	センター センター センター センター	
6	3(金) 7(火)～8(水)	曹洞宗婦人会中国管区役員会 青少年教化指導者研修会	センター センター	広島市 ホテルニューヒロデン 米子市 ワシントンホテルプラザ
7	11(月)～12(火) 本年度中止	管区役職員人権啓発研修会 子ども禅インサマーセミナー	センター センター	山口県萩市 萩本陣
8				
9	6(火)～7(水) ( )	センター布教協議会・講習会・検定会 教化資料等企画制作委員会	センター センター	米子全日空ホテル
10	12(水) 14(金) 18(火)～19(水)	教化活動推進委員会 禅をきく会(管区センター主催) 曹洞宗婦人会中国管区研修会	センター センター 婦 人 会	広島県民文化センター 米子市 皆生温泉天水
11		全国教化センター後期連絡協議会	宗務庁(予定)	
12				
1	下旬	中国管区教化センター報第33号編集会議	センター	
2	( ) ( ) 22日(水)～23日(木)	教化活動企画委員会 教化資料等企画制作委員会 布教委員長会議	センター センター センター	広島市 広島市 広島市 ホテルニューヒロデン
3				
7月再開予定 9月～3月(第1水曜日) 10月18日(火)～19日(水)		ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」 山陰中央新報文化講座「禅のこころ」 中曹青山口大会	センター センター センター	RCC中国放送(キー局) 松江市 山陰中央新報文化センター 山口県宗務所管内

## ■センター役員

	統 監	長尾 武士	国 分 寺	〒682-0942 鳥取県倉吉市国府430	☎(0858)28-4183
	主 監	和田 光史	傳 燈 寺	〒689-4233 鳥取県西伯郡伯耆町二部1519	☎(0859)62-7189
	賛 事	瀬田 啓道	雲 光 寺	〒683-0225 鳥取県西伯郡南部町御内谷1205	☎(0859)64-3023
	賛 事	藤島 義信	長 見 寺	〒692-0206 島根県安来市伯太町安田960	☎(0854)37-0515

## 編集後記

霊峰を望む鳥取県米子市に教化センターが移転致しました。開所四十三年以来山陰に設けられることは初めてとなります。この米子市は、人口約十五万人、江戸時代初期から商業都市として発展し「山陰の大坂」とも呼ばれます。今や空路、自動車道、鉄道、バス、汽船等が主要都市と結び山陰へのアクセスの中心都市となりました。

本年度の教化センターは、ご周知のとおり役員も全員替わり移転に伴う引越作業が長引き業務を本格的に執行出来るようになりましたのは、四月下旬のことでありましたので、管区内御寺院様には何かとご心配、ご迷惑をおかけしていただきますこと先ずもお詫び申し上げます。事業としては、基本的に布教化方針を柱としこれまで取り組んだ事の無い新しい事業を思考、立案し、一方では今までの事業は継続し、教化センターが、禅センターとして称することができると宗制に盛り込まれたことを踏まえ、檀信徒のみならず一般方々へ曹洞禅に親しみ、実践していただけより更に視野を広げての布教化なる事業が展開、発信できればと思う所です。

これからも、皆様方の一層のお力添え、ご教導、ご理解を賜りながら役員一同、精進・努力して参りますので何卒宜しくお願い申し上げます。